

「ひろしま里山グッドアワード」の結果報告について

1 要旨・目的

中山間地域にあるものを生かした好事例を表彰することによって、地域活動に対するモチベーションの維持を図るとともに、地域づくりの身近なモデルが新たな人材の活動を生み出す好循環へと繋げるために平成30年度から実施している。

令和4年度は「さとやま未来大賞」1件及び「未来のたね賞」4件を、令和4年12月10日の表彰式において決定し、知事から表彰した。

2 現状・背景

中山間地域の振興については、中山間地域振興計画に基づき、全ての活力の源泉となる「人づくり」に重点的に取り組んでいる。

その一環として、県内の中山間地域ならではの多様な資源を生かした取組の好事例を可視化することによって、様々な主体が地域づくり活動に取り組む機運醸成を図っていく必要がある。

3 概要

(1) 対象

個人、地域住民組織又は企業等が行う、県内の中山間地域ならではの多様な資源を生かして、新しい価値やサービスの創出につなげている取組

(2) 事業内容（実施内容）

次の選考過程を経て、「さとやま未来大賞」及び「未来のたね賞」を決定した。

賞の種類	さとやま未来大賞（1件）、未来のたね賞（4件程度） ※ 大賞の副賞として、活動の紹介映像を制作
応募期間	令和4年7月1日（金）～8月24日（水）
応募方法	専用ホームページの応募フォームによる
1次審査	9月下旬にアドバイザー及び県による選考会を実施し、5件を選定
一般投票	令和4年10月6日（木）～11月30日（水） ※ 投票はインターネットによる。投票数は7,722票。
アドバイザー	藻谷 浩介氏（株式会社 日本総合研究所 主席研究員） 新里 カオリ氏（立花テキスタイル研究所 代表） 新條 隼人氏（株式会社ドットライフ 代表取締役）
表彰式	令和4年12月10日（土） 北広島町立新庄小学校で実施

【さとやま未来大賞】

安芸高田発、国内最大規模の竹チップ堆肥センターで里山資源活用

(実施主体：株式会社リビングファーム広島) (主な活動地域：安芸高田市)

<概要>

里山が荒れる原因となっている放置竹林の整備を行い、整備で回収した竹を使用して、竹チップ堆肥を製造する取組

放置竹林問題を解決しながら、里山から生み出される資源を土づくりに生かし、里山資源の価値の最大化や持続可能な里山の復興を目指している。



【未来のたね賞】

取組の名称及び概要	団体名 [主な活動地域]	
<p>安田マルシェで地元への流れと笑顔溢れるコミュニティを作る</p> <p>人口減少が進む安田地区において、古民家の軒下を活用して地元住民の作る新鮮な野菜や手作り品の販売を行うマルシェを開催し、地域内外の人が集まれる拠点をつくる取組</p>	<p>安田マルシェ [三次市]</p>	
<p>竹林整備と再生</p> <p>会員全員が副業として振興会に登録し、竹林の管理や優良な竹材の伐出・販売を行い、地域の課題である放置竹林の整備の促進及び雇用の創出を目指す取組</p>	<p>中国四国 里山整備 振興会 [世羅町]</p>	
<p>” やっぱり地域で育てたい”</p> <p>大崎海星高校魅力化プロジェクトの進化</p> <p>地元出身のコーディネーターが学校と地域をつなぐ役目を果たし、地域の多様なヒト・モノ・コトを取り入れた“大崎上島学”の授業を先生や地域住民と一緒に設計することで「ここでしか学ぶことのできない」教育を創る取組</p>	<p>一般社団法人 まなびのみなど [大崎上島町]</p>	
<p>安芸高田 SDGs の取り組み</p> <p>～未利用資源(耕作放棄地・空き家など)を利用して、みんな笑顔に～</p> <p>里山の資源を活かした様々なテーマでワークショップを開催し、地域の未利用資源の活用や地域内外の交流につなげ、地域の賑わいづくりを目指す取組</p>	<p>一般社団法人 地域QOL研究所 [安芸高田市]</p>	

(3) スケジュール

今後、「さとやま未来大賞」「未来のたね賞」に決定した取組について、活動内容をまとめた冊子を年度内に制作する。

制作した冊子は、受賞団体や県内市町等に配布し、他の地域づくり活動の参考となるよう取組の広報に活用する。

(4) 予算（単県）

4,750 千円

(5) その他（関連情報等）

ひろしま里山グッドアワード 特設サイト

<https://good-award.jp>

